

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今回は、大きく4つについて掲載いたしました。

①キラッと輝くエピソード

○バトンの受け渡し～中1,2年生 お手製の「おめでとう」の横断幕～

○目立たないけど、やさしい手立て

③本校の教育活動

(1) 授業改善 ○「これでいいかな」と子どもたちが考える授業づくり

(2) 業務改善 ○授業改善こそが業務改善!!

(3) 認知度改善 ○令和7年度も卒業生が学校たよりの題字を書きます!

④お耳を拝借

○この新聞記事を、みなさんはどう考えますか。

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武



令和7年2月19日

チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指して② -0219校長たより-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう! 幸せにしよう!～



上松 武

1 キラッと輝くエピソード

○バトンの受け渡し ～中1,2年生 お手製の「おめでとう」の横断幕～



- ・2月10日までに高等部入学選考の合格発表が県内の各校で行われました。当校の3年生はみな合格しました。その報告で校長室に来た生徒たち一人一人に「合格通知書」を手渡しました。とても晴れやかな表情が印象的でした。
- ・3年生の教室の近くに、1年生・2年生が共同で制作した横断幕が飾られていました。とてもあたたかい気持ちになりました。そして、このような取組一つ一つが「次へのつなが

り」を作っていることを再認識しました。

- ・制作した2年生は、「次は自分たちの番だ」と思ったことでしょう。来年度は、最高学年として学校をリードしていく立場になるとともに、中学部卒業という新たなステージへ挑むこととなります。
- ・それぞれが「一つ大きくなる」時期を迎えています。

○目立たないけど、やさしい手立て

- ・「おめでとう」の横断幕を眺めていた時に、裏側の本棚のラベリングが目に入りました（右写真の丸囲み）。
- ・中学部の生徒が家庭生活の授業で本棚やオモチャ箱を片付けた後に貼りました。職員がやることが多いと思いますが、生徒たちが「少しでも探しやすいように」「元の場所に片づけやすくなるように」という気持ちでやってくれたことに、さり気ない親切心を感じました。
- ・このような手掛かりは、障がいの有無に関わらず、どこにでもあるといいなと思います。「あつて、うれしい」と相手が思う、そんな気配りができる大人に成長してほしいと思います。



2 本校の教育活動

(1) 授業改善

○「これでいいかな」と

子どもたちが考える授業づくり

- ・ここ最近の校内研究を通して、子どもたちにはできることが増えており、先生方の少ない支援や指示で「分かって動ける」ようになってきています。
- ・例えば、小学部の朝体育では、毎時間、上の写真のような子どもたちの姿が見られています。そして、この姿は音楽や特別活動などでも同じように見られています。その要因を、私は次の3つだと考えています。



- ①手取り足取りの支援や「個につく支援」をできる限り行わないようにしたこと
- ②これまでに学んだ内容を他の授業に取り入れたり、「やってみたい」「何でだろう」と興味関心や挑戦する気持ちを引き出す工夫をしたりして授業改善を進めてきたこと
- ③自己評価の他に、家庭や地域の方々からの評価（＝他者評価）を授業に取り入れ始めたこと

- ・このような成長を受けて、来年度は、『自分の頭で考えて行動する』子どもの育成を進めていきたいと考えています。2つの授業が参考になるとと思います。

【例】小学部 社会生活「ふれあい出店を成功させよう！」

□看板作りで色が決まらず、全ての色を混ぜたら汚い色になった。「お客さ

ん、喜ぶかな」と考えさせる発問（＝自分の行動の振り返り）で、自分の塗りたい色ではなく、相手が喜ぶ色を話し合って決めて、看板を仕上げた。

【例】 中学部 職業基礎「牛乳パックを使った製品にむけての活動」

□紙工班の試作品の「油吸い取りパック」に意見などを記入してもらって用紙を付けて、職員や保護者に配付した。いくつかの意見などを「〇〇という意見をもらったけれど、何を変えてみようか」と考えさせる発問で、生徒たちの発言をすぐ作業工程や材料の変更に反映した。



・ 授業中の意見やアイデアを引き出すこと、そして、その意見などを受けて、考えさせる発問やそのタイミングが大きなポイントだと考えられます。

・ もう一つ上の高みにチャレンジしてみましょう！

(2) 認知度改善

○授業改善こそが業務改善!!

- ・ (1) に記載したように、授業改善の成果として、様々な学習活動に取り組む中で「分かって動ける」力が身に付いてきています。それに伴って、支援に当たる教員の人数は、当初の授業計画よりも少ない人数で行うことが可能となっています。支援に当たらずにいい先生方は、その時間を教材研究や授業の打合せに当てたり、学級業務の対応に使ったりしています。
- ・ その結果として退勤時間が少しは早まっているという好循環が、今年度の途中から生まれてきているように感じています。
- ・ 行事や会議の精選や削減などは一定の効果があるかもしれませんが、主体的に子どもたちが活動する授業改善こそが、働き方改革につながると確信が得られる1年になりそうです。
- ・ 45 時間以上の超過勤務状況は下の表のとおりです。
- ・ 先生方の授業力、指導力、そして子どもたちにどんな力が必要なのかを貪欲に考える力に感謝です！

表 45 時間超過勤務者数

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
令和6年度	5	2	4	2	0	2	4	2	0	0		
令和5年度	5	6	6	1	0	2	3	2	1	0	0	0
令和4年度	3	9	9	2	0	5	5	6	1	1	5	0

(3) 認知度改善

○令和7年度も卒業生が学校たよりの題字を書きます！

- ・ 令和5年度から、その年の卒業生が学校たよりの題字「ゆめをのせて」を書くことを始めてきました。
- ・ 毎月、個性豊かな題字を見ることができて、うれしい限りです（担任の先生方にはご負担をお掛けしているかもしれません）。
- ・ 学校たよりを毎月配付していて、「この字は味があっていいね」や、「この字は〇

○さんが書いた字ですね！元気にしていますか」などと話しかけられて、会話がはずむことがあります。

・少しでも、当校の子どもたちの頑張りや個性に注目していただけたら、幸せです。



(題字 ○学部 ○○○○)

ゆめをのせて

十日町市立ふれあいの丘支援学校
令和7年○月○日発行
令和6年度「いじめ見逃しゼロ標語・ポスター」金賞受賞小学部共同作品

4 お耳を拝借!!

(1) この新聞記事を、みなさんはどう考えますか。

- ・休日に新聞を読んでいたら、かなりショッキングなニュースを目にしました（次ページの記事）。知っていた先生がいるかもしれませんが、私は知らなかったです。
- ・自分が関わった卒業生とそのご家族が、その後の人生をこの記事のように送ったならば、「在学中にもっとすべきことがあったのではないか」と後悔の気持ちでいっぱいになると思います。
- ・今この記事から学ぶことは、「学校教育の枠を超える実践の必要性」です。学校教育を受けている間に、多職種機関とどれだけ信頼関係と支援連携ができるのか、絶えず考えながら教育活動を進めなければならないと考えます。
- ・その点では、本校は恵まれています。発達支援センター「おひさま」と隣接しています。「おひさま」との二人三脚、ふれあいの子どもたち一人一人のために実践していきましょう。

「限界」知的障害の次男の首を

千葉県長生村で昨夏、重い知的障害がある次男(当時41)を殺害したとして、父親の平之内隆幸(被告78)が殺人罪で起訴される事件が起きた。父親は母親と2人で次男の世話をしていたが、「限界だ」として、障害者施設への入所を希望していたが、かなわずにいた。SOSはなげ田かなかったのか。父親の初公判は17日、千葉地裁で開かれる。(本水あかね)

入所待ち2万人

県の障害者チームがまとめた中間報告書は「家族が追い詰められていると認識すべきであったが、家族からのSOSと認識している関係機関は少なく、認識が甘かった」と指摘した。

一方で、障害者の入所施設は全国的に「入所待ち」になっている。

佛教大の田中勉子教授(障害者福祉)が昨年、NHKと共同で実施した調査では、入所施設の利用を希望しながら待機状態にある人は全国にのべ2万9099人、グループホーム(GH)ではのべ1910人に上った。待機状態の7割以上が知的障害者だったという。

日本では、障害者が暮らす場が施設に偏っているという指摘があることなどから、政府は「地域移行」を進めて施設の定員を段階的に減らす方針を示している。だが今回、父親は入所施設に代わる居場所を見つけないことができなかった。GHは障害者の状況によっては受け入



施設見つからず疲弊した父 きょう初公判

「家は事件の約1カ月前 間への入所を希望した。に神奈川県小田原市から引っ越してきたばかりだった。入所を中止していたが、神奈川県内の施設チームがまとめた中間報告書によると、次男は多動性障害(注意欠如多動症)を伴う重度の知的障害があり、養護学校を卒業後の1998年から県立障害者施設「中井やまゆり園」(同県中井町)の一時的利用を始めた。

2008年に日帰り通園を利用した際に、職員が次男の首に絞められた痕があるのを見つけた。父親は「本人が眠らない日が続き、つらいので切りました」と説明した。

父親は20年に「(次男が)テレビをよみ取目にした。外に出て行って警察に2回通報された。夜寝ないのが「辛い」ので「バベ



事件が起きた住宅「千葉県長生村」。家族は昨年8月上旬、千葉県長生村へと転居した。事件は翌7月に起きた。

県内の施設に入所できなかった。引越した先は住宅が点在している。近所への迷惑を気にしている様子だったという。近所の住民は父親が相談支援事業所に打診した。だが、そのとき園は新規入所を中止中で、ほかの県内の障害者施設やグループホーム(GH)への入所、精神科病院への入院を希望したものの、いずれも断られた経緯があった。

「愛情をもっと接しているように見えた」と言う。「方、別の住民は「(父親は)介護に疲れているようだった」と話す。結局、入所先は見つからないまま、

殺人の男閉鎖病棟に移す

青森・犯人隠避 元病院長ら、隠蔽狙いか

「みちのく記念病院」(青森県八戸市)で、入院患者による殺人を病院側が隠蔽したとされる犯人隠避事件で、患者の男(29)＝殺人罪で服役中＝が同室の男性を殺害後、当時の院長ら、男を閉鎖病棟に移動させていたことが、県警への取材でわかった。県警は、殺人事件を隠蔽する目的があったとみている。

犯人隠避容疑で逮捕されたのは、当時の院長の石山隆彦(67)と、殺害された男性の主治医だった石山哲彦(69)の兄弟。いずれも容疑を否認しているという。

殺人事件は2013年3月12日夜に発生。病院の療養病棟に入院していた男が、同室の高橋生悦さん(当時57)の目を歯ブラシの柄で突き刺すなどした。高橋さんは翌日、死亡が確認された。

県警によると、面談者は、この事件が起きた後に男を医療保護入院させるよう手配し、閉鎖病棟に移していた。

医療保護入院には、精神保健指定医が診察したうえで、家族が市町村長の同意が必要。男については、精神保健指定医の資格を持つ石山哲彦が診察したとして、八戸市長の同意を文書で得て

日本では、障害者が暮らす場が施設に偏っているという指摘があることなどから、政府は「地域移行」を進めて施設の定員を段階的に減らす方針を示している。だが今回、父親は入所施設に代わる居場所を見つけないことができなかった。GHは障害者の状況によっては受け入

また、2人は認知症の疑いで同病棟に患者として入院中だった80代の医師(のちに死亡)の名義で、高橋さんの死亡診断書を作成するよう、看護士らに指示。この医師は当時、診察や筆記ができる状態になかったことから、県警は死亡診断書を作成したのは別人とみて、医師法違反や私文書偽造の疑いも視野に調べている。

2人の逮捕容疑は、高橋さんの死因を「肺炎」とする虚偽の死亡診断書を作成して遺族に渡し、殺人事件を隠蔽したというもの。(渡部耕平)